

(別紙5)

整理番号 2019P-050
補助事業名 2019年度 国内スポーツ・パラスポーツ競技力向上のための 補助事業
補助事業者名 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

障がい者のスポーツ活動の促進を図るため、全国障害者スポーツ大会やその予選会の開催及び各競技大会を開催し、もって公益の増進に寄与することを目的とする。

(2) 実施内容

①第19回全国障害者スポーツ大会（茨城大会）

開催日：令和元年10月12日（土）～14日（月・祝）

実施場所：茨城県内（笠松運動公園陸上競技場 他）

開催競技：陸上競技、水泳、卓球（サウンドテーブルテニス含む）、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール、バレーボールサッカー

オープン競技：グラウンド・ゴルフ、車いすダンス、スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー、ハンドアーチェリー、ブラインドテニス

※台風19号の影響により10月10日（木）午後大会中止を決定。

②第19回全国障害者スポーツ大会予選会

1) 聴覚障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け令和元年5月18日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。



(別紙5)

2) 視覚障害者グランドソフトボール競技

全国を8地区に分け令和元年4月27日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。



3) 車いすバスケットボール競技

全国を6地区に分け令和元年5月25日～6月23日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

4) 知的障害者バスケットボール競技

全国を6地区に分け令和元年4月13日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

5) 知的障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け令和元年5月18日～6月16日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。



(別紙5)

6) 知的障害者サッカー競技

全国を6地区に分け令和元年4月20日～6月30日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。



7) 知的障害者ソフトボール競技

全国を6地区に分け令和元年5月11日～6月22日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

8) 知的障害者フットベースボール競技

全国を6地区に分け令和元年5月11日～6月23日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。



9) 精神障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け令和元年5月18日～6月2日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

(別紙5)

③国際盲人マラソン大会

実施日：平成31年4月14日（日）

実施場所：土浦市川口運動公園陸上競技場

参加者数：男子96名、女子38名、計134名



④国際大会日本代表ユニフォーム経費

大会名：ブリスベン2019INASグローバルゲームズ

実施日：令和元年10月12日（土）開会式～19日（土）閉会式（8日間）

実施場所：ブリスベン（オーストラリア・クイーンズランド州）

参加者数：選手57名 競技役員27名 本部役員7名 合計91名

実施競技：陸上競技、バスケットボール、自転車競技、フットサル、ボート、水泳、卓球、テコンドー、テニス

※下線競技に日本は参加。

成績：金メダル9個、銀メダル12個、銅メダル15個 計36個



2 予想される事業実施効果

①第19回全国障害者スポーツ大会（茨城大会）

国民体育大会の終了後、同じ会場を使い全国障害者スポーツ大会を行っているため、

(別紙5)

障がい者の国体という位置づけになっており、開催する県の県民の皆さまも暖かく迎えてくださり、障がいを身近で感じ、障がいの理解が深まった。大会終了後、今まで障がい者と接することがなかった方々が、気軽にサポートの声掛けができるようになるなどの効果がでる。

②第19回全国障害者スポーツ大会予選会

特に知的障がいの団体競技は、選手本人が競技団体を作ることや、チームを運営することが難しく、なかなか組織として成長することが難しい。しかし、本事業である予選会を継続して開催することにより、支援者が増え、平成27年には知的障がい者サッカー連盟が立ち上がるなど組織としての運営が少しずつ広まっている。まだ団体として活動していない競技も今後予選会の活動を通じて、競技団体組織し、独自の全国大会を行えるようになることが期待できる。

③国際盲人マラソン大会

国内でも有数の参加者数を誇る、かすみがうらマラソン大会と同時開催することで、視覚障がいのランナーと伴走者が走る姿を多くのランナーがコース上で体感することができる。同じ空間を共有することにより、より障がいの理解が進むことが期待できる。

また、出場する選手にとって、時差もなく、選手たちに有利な環境で国際公認レースが行われることは、自身の記録更新も期待できる。

④国際大会日本代表ユニフォーム経費

日本代表選手団として統一したユニフォームを着ることで、チームの士気も高まり、好成績につながる。また、応援する国民も、「JAPAN」の文字や、日の丸がついていることにより、日本選手だと認識しやすく、声援の声掛けも増える。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

無し

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

無し

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

(コウエキザイダンホウジンニホンショウガイシヤスポーツキョウカイ)

住 所 : 103-0014

東京都中央区日本橋蛸殻町 2-13-6 ユニゾ水天宮ビル 3 階

代表者名 : 会長 鳥原光憲 (トリハラミツノリ)

担当部署 : 総務部 (ソウムブ)

担当者名 : 岩坪 友子 (イワツボトモコ)

電話番号 : 03-5939-7021

F A X : 03-5641-1213

E - m a i l : miyashita@jsad.or.jp

U R L : <http://www.jsad.or.jp>